

すべての人が認め合い、 支え・支えられながら 共生するまち

誰もが分け隔てなく、その持てる能力を発揮しながら地域社会とのつながりを保ち、安心して生活できる環境を整える必要があります。世代の差や障害の有無などに関わらず、支援する側と支援される側の関係を越え、すべての人がお互いに認め合いながら共生できる社会づくりを進めます。

取組の方向性

1 互いを理解し、認め合い、支え・支えられながら暮らすことができる社会をつくる

- 国籍や性別、年齢の違いや障害の有無、性的指向や性自認等に関わらず、お互いを理解し合うための機会や場所を身近な地域につくることなどを通じ、誰一人として取り残されることのない共生社会をつくります。
- 地域の中に、ボランティアや趣味の活動などの様々な社会参加活動の選択肢が用意され、そこに参加する区民がそれぞれの力を発揮できる環境を整備するなど、共助の活動を支援し、地域で支え合うまちづくりを進めます。

2 地域に多様な福祉基盤が整い、自分らしく歳を重ねることができるまちをつくる

- 「人生100年時代」に自分らしく歳を重ね、人生の最終段階まで住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、多様な福祉基盤を整えていきます。
- 一人ひとりに合った就労や社会参加の選択肢を幅広く提供し、高齢者や障害者を含め、誰もが役割を持って社会に参加できる環境をつくります。

3 多種多様なつながり方をつくり、孤立させないまちをつくる

- 地域の中で孤立しないように、必要なときには、ICTを活用するなど多様なスタイルで、地域社会とつながれる仕組みを構築します。
- 公的な介護の充実を図るとともに、これによらず家族や関係者を個別に支えている人（ケアラー）が孤立したり、将来の選択肢を奪われたりすることがない社会をつくります。

重点的な取組

共生社会づくりに向けた共助の取組の推進

ICTの活用により、ボランティア活動などの様々な社会参加の機会を創出することや、誰もが気軽に同じ時間を共有できる場所を確保することなど、地域で支え合うまちづくりを進めます。

多様な福祉基盤の整備

本格的な超高齢社会の到来を見据え、様々なニーズに対応した在宅サービス・施設サービスのさらなる整備や相談体制の充実など、多様な福祉サービスの基盤を整備します。

人と人がつながり 孤立させないネットワークづくり

地域共生の視点に立って、地域の福祉サービスの担い手同士のネットワークづくりを進めます。また、孤立を防ぐため、必要な人が必要なときに、対面でのつながりの場だけでなく、ICTなども活用した多様なスタイルで、人・活動・組織とつながれる地域社会をつくります。

